

1 学校教育目標

学ぶ喜び ふれあう喜び 鍛える喜びを もつ子ども

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・学力の向上に取り組む学校	・居心地のよい学校づくりに取り組む学校	・体力向上に取り組む学校
○児童・生徒像	・学ぶ喜びをもつ子	・ふれあう喜びをもつ子	・鍛える喜びをもつ子
○教師像	・授業改善を推進する教師	・児童の可能性を引き出す教師	・子供と共に汗を流す教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学力の定着と主体的に問題を解決する力の育成
 4月に実施した区の学力調査では目標を大きく上回り通過率国語 88.1%算数 92.3%を達成できた。200文字程度の短作文と、令和元年度から実施している「桜☆学習コンテスト」をさらに充実させる。漢字や計算、ローマ字、23区名、都道府県名等、努力すれば必ず理解できる内容の定着を図ることで、努力すれば結果が表れることを実感させる。
 また、区の指導力向上中核校（理科）としての研究を通し、理科好きな児童が増えている。特に教師の指示が無くても主体的に問題解決する姿が見られ始めている。今後も観察・実験やものづくりを中心として、科学的に考える力の育成を図る。

2 体力の向上と健康な体の育成
 コロナ禍での運動制限のため、思い切って体を動かすことができない状況が続いた。しかし、投力向上の取り組みなどが成果として現れ、全学年全種目のうち61項目63.5%が都平均を超えた。今後は持久力や柔軟性の向上にも力を入れ、体育授業の改善を含め体力の向上を図っていく。

3 いじめがなく、毎日楽しく通える学校づくり
 いじめはいつ、どこにでも発生するという意識を全教職員が共有するとともに、「いじめ防止対策委員会」において、毎月いじめに発展しそうな案件を洗い出し、学級担任等からの聞き取り対応を迅速に行っている。また、Web-QUの結果や各種アンケート調査の結果を生かしながら、いじめの早期対応を図ることで、継続するいじめの件数0を目指していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン 学ぶ喜びをもつ子	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成 ふれあう喜びをもつ子			○	○	○
3	健やかな体の育成 鍛える喜びをもつ子			○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン 学ぶ喜びをもつ子							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
授業力の向上と基礎学力の定着率向上		令和5年度目標通過率 国語・算数共に85.0 2月到達度確認テスト 国語75.0 算数75.0		通過率 国語86.8 算数88.4 2月 通過率 国語79.3 算数80.0		学習の定着状況と具体的な取組は6(1)を参照		◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新	朝のモジュール学習	全学年 国語	週4回 年50単位 時間程度 始業前15分	新出漢字等の言語事項指導を行う 読み書きの練習やテストを継続して実施	桜☆学習 コンテスト、漢 字での満 点者数	4・9・1月のコンテストで、 最終合格者数 各85%	モジュール学習は計画 通り実施。最終合 格者は80%以上を 達成	モジュール学習は50単 位時間以上実施 問題作成は大きな 成果	○
2 新	タブレット活用	全学年 全教科	年間	AIドリル、クラスルームを活用した課題の提出・回収、スライド利用、フォームアンケート等を活用し、個別最適な学びと協同的な学びを実現する	児童アンケ ット	学校の授業はわかる に肯定的評価90%以 上	肯定的評価90.3% 勉強が大切と思う 児童95.2%	3年生以上では特に 有効なタブレット活用 ができた	◎
3 継	自学ノート	2年生 以上 全教科	年間(2 年生は後 期から)	家庭学習の習慣化と興味ある学習等で自ら課題設定し追究する力の育成を目指す 宿題とは別に自ら考えた課題で自学ノートに取り組む 模範となる自習ノートをデータ化	各学年の 模範ノート をデジタル 化 児童アンケ ット	1月までに全学年15 例以上を掲載 家で宿題以外の勉強 をする児童70%	1学年を除き15例 以上を掲載できた 宿題以外に取り組 めた児童は61.3%	自学ノートの取組み を継続する 掲示スペースを新しく 作成する	○

4 継	短作文	全学年 各教科 領域	週1回	低学年100文字程度、高学年200文字程度の短作文を習慣化 テーマや書き出し読む対象等を工夫し、書く力を身に付けさせる	学級担任 からの聞き取り	年間30回を目標に短 作文に取り組む 各学級80%達成	14学級で30回以上 取り組めた 80%を超えたが、内容 や取り組ませ方に課題は残る。	伝えたいことを短 く端的に表すこと を今後も指導する	◎
5 継	桜☆学習コ ンテスト	全学年 算数 社会	長期休業 前後	休業前に課題を提示 (漢字)・計算・ローマ字・23区 名・都道府県名の課題 長期休業明けに確認テスト コンテスト期間内であれば何度 でも再受験させる	全員満点 となるよう、各回 で3回以上実施	4・9・1月のコンテストで、 最終合格者数 各85%	最終合格者数は、 80%以上を達成 全てを1回で合格 した児童 4月61名、9月88 名、1月94名	コンテストの内容をデータ 化するとともに、実施 方法も校内全体 で統一する	◎
6 継	MIM-PM フォ ーアップ	1年 2年 国語	年間	「MIM-PM→フォローアップ 指導→再 アセスメント」のサイクルを定着 サマースクールで1年のみ「MIM-PM→ フォローアップ 指導」を実施 2年で、年間3回以上MIMアセ スメントを実施	MIM-PMの 結果	①7月までにサイクルを 全学級実施 ②12月までに3rdス テージを15%未満 ③第2学年7月まで にMIMアセスメントを実施 し3rdステージ児童に は、サマースクールに参加	MIMの出張指導を 受けた。デジタル MIMを推進する。 12月15%未満は未 達成 2月18.6%にまで 達成	学級による差があ るが、定着の進歩は みられる 2年生のMIMアセ スメントは行えな かった。	△
7 継	体験活 動を通して、 主体的に 問題解決 する児童 の育成	全学年 理科 生活科	年6回	体験を通して主体的に学ぶ自 児童を育成するための研究授 業の実施	校内研究 を通して	①1月までに6回以上 の研究授業を実施 し、区内へ公開 ②自分で不思議を発 見し、なぞを解き明 かそうとしていると 回答する児童70%	研究授業を実施 外部からの参観者 延べ24名 なぞを解き明かそ うとしていると回 答する児童72.1%	2名の講師に継続し て指導を受けた 理科を中心に、主 体的に問題解決する 児童の育成が図れ ている	◎

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成			ふれあう喜びをもつ子	
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度		
・いじめ防止の徹底と早期発見、早期対応、早期解決、深刻ないじめ根絶 ・体験的な学習や地域と触れ合う行事をと おして、地域に見守られ、安心して通 える学校とする。	4か月以上継続するいじめの件数0 児童アンケートで「安心して、楽しく学校 に来ることができた」の肯定的評価 90%以上	1月現在、4か月以上継続は2件 「安心して、楽しく学校に来ること ができた」の肯定的評価86%	毎月のいじめ防止委員会に より、情報を全体共有し早期 解決のための手段を共有・実 践できた	◎		

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
思いやりの心の育成	①保護者アンケートで「学校は思いやりの心を育て、いじめ防止に努力している」の肯定的評価 90% ②児童アンケートで「安心して、楽しく学校へ来ることができた」の肯定的評価 90%	・幼保小連携、小中連携の工夫(間接・直接交流) ・地域にかかわる体験活動や本物に触れる活動等を各学年 5 回以上実施。 ・QU や各種意識調査結果を分析し、児童に寄り添った指導を心掛ける ・たんぽぽ学級と通常の学級との交流活動を年間通して実施	保護者「学校は思いやりの心を育て、いじめ防止に努力している」肯定的回答 76.9%が 児童「思いやりの気持ちで友達に優しく接している」肯定的回答 88.5% 「安心して、楽しく学校に来ることができた」の肯定的評価 86%	幼保小、小中の連携を継続しながら、内容の充実に努めた 体験活動は 5 回以上実施できた たんぽぽ学級と通常の学級との交流活動は教科や行事で年間通して実施	○
いじめの根絶	①いじめの疑いとして認知した件数 500 件以上 ②いじめとして把握した場合、児童と保護者の不安を年度内にすべて解消	・いじめアンケートで「相談できる人がいない」児童を全職員で共通理解(10月) ・アンケート内容を管理職がすべて把握 ・いじめ防止研修会を年 5 回以上実施 ・毎月委員会を開催し担任等からヒアリング ・生活指導夕会を週 1 回実施	いじめの認知件数 1 月 24 日現在 160 件 毎月のいじめ防止委員会で学校全体の状況を確認し、管理職や主幹・生活指導主任から、担任に具体的に対応について指示を出して解決に向けた取り組みを行った	日常の勤務に余裕を持たせるように工夫することで、児童と対峙する時間を確保し、話を聞いたり様子を見守ったりする	◎

重点的な取組事項－3		健やかな体の育成 鍛える喜びをもつ子			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
「投げる力」を重点として、体力の向上を図る。また、柔軟性・持久力・瞬発力を高めるための取組を実施する。	「ソフトボール投げ」の東京都 T スコアを第 3 学年以上で 50 以上	男子：3 年 51.3、4 年 50.1、5 年 52.9、6 年 50.8 女子：3 年 50.2、4 年 54.7、5 年 53.4、6 年 56.7	立ち幅跳びに特に課題がある。改善を図る。	◎	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力の向上	・ソフトボール投げ第 3 学年以上で T スコア 50 以上 ・全学年男女全種目のうち 60%以上が都平均以上	・投げ方教室を実施 ・テーパーボールを主運動とした取組の充実 ・なわ跳び、持久走に集中して取組む期間を設定	ソフトボール投げ第 3 学年以上で T スコア 50 以上は達成 全学年全種目 96 項目中 56 項目、男子 28 項目、女子 28 項目 58%、が都平均を超えた。	今後も調査自体の職員研修も行い、記録の向上に努めていく。	△

教員の体育指導力向上	・年5回の体育実技研修会を実施する。	・2領域以上で実技研修会 ・自主研修会で体育研修実施	体づくり運動、走・跳の運動、水泳運動の3領域で実技研修を実施	次年度は内容のフラッシュアップを図る。	◎
------------	--------------------	-------------------------------	--------------------------------	---------------------	---

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて

【課題】2月の定着度確認テスト結果は次の通り。1年生80.1%、2年生65.3%、3年生82.7%、4年生82.9%、5年生76.3%、6年生90.7%。

学習の定着状況はおおむね良好である。

自学ノートへの取り組みやMIMの指導については課題が残る。

桜☆学習コンテストの一発満点賞、プラチナ賞を取る児童が、予想よりも少なかった。

【対策】引き続き、学力向上委員会を中心とした共通実践事項を明確にしながら、テスト結果などを検証するなどして、授業展開を工夫し学力の定着を図る。

桜☆学習コンテストに向けた長期休業中の宿題への取り組みせ方、コンテストの実施についての学年の共通理解共通実践を再度見直していく。

短作文の取り組みを継続させ、表現力の育成に力を注ぐ。

イ 学力向上に関わる取り組みについて

ユニバーサルデザインを意識した環境づくりを進め、誰にでも好ましい学習環境・学習に集中できる教室づくりをする。

話型を基にした話し方を基本に、授業中の発表を活性化し、日本語で伝える分かりやすい話し方伝え方を身に付けさせる。

令和6年度教科書へに対応し、年間指導計画を見直す。桜☆学習コンテスト漢字の内容見直し、モジュール学習での漢字配列の検討を進める。

教科指導専門員の指導を生かして、足立スタンダードを基本とした国語と算数における分かりやすい授業づくりを学校全体で進める。

次年度に向け、以上のことを学力向上委員会を中心に見直し、PDCAサイクルで学力向上に関わる取り組みを組織として推進していく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

本校に勤務するすべての職員の力を結集し、それぞれの職種における様々な視点から子ども達を見守り、これからも支援をしていきます。

常に桜っ子のより良い成長を第一に考え、学校組織として今後も精一杯努力をしていきます。

GIGAスクール構想に基づく、一人一台端末を生かし、個別最適な学びをこれからも推進していきます。一方で、様々な学習において、本物に触れる機会をできるだけ多く取り入れ、各種出前授業の実践や校外学習、社会科見学、自然体験教室等を有意義なものとしていきます。

(3) その他（学校教育活動全般について）

保護者や地域、開かれた学校づくり協議会の協力のもと、学校教育全般を充実させるように努めます。ICTの活用を一層推進します。

保護者や地域の願いを受けとめながら、学校行事の見直しや検証を行いながら、教員の働き方改革も推進します。千寿桜小学校の子ども達のために、持続可能な令和の日本型学校教育～すべての子ども達の可能性を引き出す、個別最適な学びと、共同的な学びの実現～を推進します。